

# 令和6年度 学校経営要綱

広川町立下広川小学校

## 1 学校の教育目標

### (1) 学校経営の基盤

- 日本国憲法、教育基本法、学校教育法をはじめ、その他の関係法規及び学習指導要領、福岡県教育委員会、福岡県教育庁南筑後教育事務所、広川町教育委員会の教育施策に基づいて公教育を実施する。
- 児童が安心して学び、保護者や地域に信頼されるとともに、地域とともに児童を育てる学校づくりを実施する。
- 人権・同和教育を基盤に据えて、一人一人を大切にすることを教育の実施する。

### (2) 学校教育の目標

夢や希望をもち、知・徳・体の調和のとれた子供の育成

#### 【教育目標に関する見解】

広川町第5次総合計画（令和5年度～令和13年）の策定を受け、町の教育施策である「未来の広川町を担う一人一人の個性と能力を伸ばし、生きる力と豊かな人間性を育てる」ためには、生きる力の原動力である「夢や希望」をもたせることが大切である。また、「知・徳・体の調和」は、中央教育審議会答申において、我が国の教育の「不易」な内容であると同時に、「一人一人の個性と能力を伸ばし、豊かな人間性を育てる」ことにつながると考える。

### (3) めざす子供像、学校像、教師像

#### 子供像

- 自分の力で学び、進んで表現する子供（知：確かな学力）
- 思いやりの心を持ち、共に伸びる子供（徳：豊かな心）
- 進んで体を鍛え、粘り強くやり通す子供（体：健やかな体）

#### 学校像

- 活気に満ち、子供の育ちの姿に責任がもてる学校
- 心豊かな環境構成がなされ、落ち着きのある学校
- 地域や保護者とつながり合い、信頼される学校

#### 教師像

- 教えるプロとしての自覚をもち、互いに研鑽する教師
- 子供としっかり向き合い、伸びや良さを称賛する教師
- 経営参画意識をもち、意図的、計画的、持続的に活動する教師

## 2 児童の実態等

### (1) 学力について

- 学期末テスト達成率：(国語 75.5%、算数 72%)
- 標準学力調査の結果：(2, 4, 5, 6 年生は標準スコア達成。1 年生は国算ともに 3P 下。3 年生は国のみ 1P 下、算は標準スコア達成。)
- 県学力調査 (5 年) の結果：(全て県平均以上)
- チャレンジテスト (4 年) の結果：(全て県平均以上)
- 全国学力・学習状況調査質問紙の結果：(全国平均より高：家で 1 時間以上学習、朝食、読書)  
(全国平均より低：書く問題を最後まで努力、課題解決に自分から取り組む)

### (2) 豊かな心について

- 自己他者肯定感検査の結果：自己肯定感 78%の児童が満足
- 道徳性アンケートの結果  
A 評価 (希望と勇気、努力と強い意志) B 評価 (親切、思いやり) C 評価 (勤労、公共の精神)
- 教師の見立て：素直さや優しさは育っているが、主体性や積極性が育っていない。

### (3) 体力について

- 新体力テストの結果からの課題：握力 (筋持久力) 長座体前屈 (柔軟性)
- 体力アップシート活用率：100%

## 3 教育課題及び経営課題

### 【教育課題】

- 学習環境 (ひと・もの・こと) へ自ら働きかける主体的な学習態度の育成
- 学力差 (学級・学年差及び 2 極化) の解消
- 指示待ちの姿勢の改善

### 【経営課題】

- 学級経営力の向上
- 授業力の向上
- 学校経営参画意識の高揚

## 4 重点目標

目的意識をもち、やり抜く子どもの育成

### 【各推進部重点】

- 「確かな学力」を身に付けさせるためにめざす目標「学習に集中」・・・学力向上推進部
  - ・学習の初めに目的意識をもち、最後まであきらめずに取り組む (子供)
  - ・粘り強く取り組むための教師の手だてを工夫する (教師)
- 「豊かな心」を身に付けさせるためにめざす目標「笑顔で挨拶」・・・心の教育推進部
  - ・自分や友だちのよさや違いを認め、みんなが笑顔になる行動をする (子供)
  - ・友達、保護者、地域などいろいろな人に褒めてもらう体制を整える (教師)
- 「健やかな体」を育成するためにめざす目標「みんなで運動」・・・体力向上推進部
  - ・体力づくりや運動の目的をもち、進んで運動に取り組む (子供)
  - ・友達と励まし合ったり、協力したりして楽しく運動する仕組みをつくる (教師)

## 5 学校経営の重点

### 授業力・学級経営力と学校経営参画意識の高揚

#### ～指導の共有・指導の徹底・見届け称賛～

#### 【重点目標達成のための具体的方策】

- ① 目的意識をもち、やり抜く学習指導の推進「主体的・対話的で・深い学び」
  - ・学習の導入に目的意識をもつ指導方法の工夫
  - ・子供の追究意欲の持続化及び高揚を図る手だての工夫（発問・ゆさぶり・新たな視点の提供など）
  - ・ICT教育の活用（個別最適な学び・協働的な学びの実現）
  - ・「下広小の約束」5項目の継続・徹底
- ② 校内研修の充実
  - ・校内研修を導入とゆさぶりの2点に絞り、効果的な方法の追究
  - ・実践的・日常的な研修の推進
  - ・授業マネジメント研修の充実（授業づくりのOJT）
- ③ 学力向上・心の教育・体力向上の三推進部の充実
  - ・学校の自己評価との連動（PDCAのマネジメントサイクル）
  - ・重点目標達成に向けた起案・提言システムの構築
  - ・一人一役による役割の明確化・意欲化
- ④ 道徳の時間を要とし、豊かな心を育む道徳教育の推進
  - ・子供の心に響き、心を揺さぶり、道徳的価値の内面的な自覚と道徳的实践力を高める指導の工夫
  - ・道徳的価値に触れ、心を動かす体験活動の充実
  - ・いじめの未然防止に向けた道「考え、議論する道徳」の推進
- ⑤ 特別支援教育の充実
  - ・特別支援コーディネーターを中核とした支援システム
  - ・外部機関との積極的な連携

## 6 確かな教育活動を進めるための原則

- ① 児童の安心・安全を何よりも優先し、危機管理を日常化する。気になるものはメモの習慣、メモの管理、確実な引継（口頭が1番）
- ② 報告・連絡・相談・確認の徹底や起案システム（起案内容をどのようにして全職員へ周知を図るか）の確立により、事務処理のミスや指導の不一致を防ぐ。
- ③ 学校ファイルサーバーを活用して、指示・伝達の周知、教育活動の共有化、資源の節約及び事務処理の効率化を図るとともに、日常的な情報交換を密にし、職員間の意思疎通（風通し）をよくする。